開経偈

無上甚深微妙の法は。百千萬劫にも遭遇たてまつること難し。我今見聞し受持する事を得たり。願わくは如来の第一義を解せん。至極の大乗思議すべからず。見聞觸知。皆菩提に近づく。能詮は報身。所詮は法身。色相の文字は。即ち是れ應身なり。無量の功徳。皆是の經に集れり。是の故に自在に。冥薫じ密に益す。有智無智。罪を滅し善を生ず。若は信若は謗。共に佛道を成ず。三世の諸佛。甚深の妙典なり。生生世世。値遇し頂戴せん。

妙法蓮華經方便品第二

爾時世尊。從三昧安詳而起。告舎利弗。諸佛智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切聲聞。辟支佛。所不能知。所以者何。佛曾親近。百千萬億。無數諸佛。盡行諸佛。無量道法。勇猛精進。名稱普聞。成就甚深。未曾有法。隨宜所説。意趣難解。舎利弗。吾從成佛已來。種種因縁。種種譬諭。廣演言教。無數方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如來方便。知見波羅蜜。皆已具足。舎利弗。如來知見。廣大深遠。無量無礙。力。無所畏。禪定。解脱。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舎利弗。如來能種種分別。巧説諸法。言辭柔軟。悦可衆心。舎利弗。取要言之。無量無邊。未曾有法。佛悉成就。止。舎利弗。不須復説。所以者何。佛所成就。第一希有。難解之法。唯佛與佛。乃能究盡。諸法實相。所謂諸法。如是相。如是性。如是體。如是力。如是作。如是因。如是縁。如是果。如是報。如是本末究竟等。

（所謂諸法より三返くりかえし讀む）

妙法蓮華經如来壽量品第十六

自我得佛來　所經諸劫數　無量百千萬　億載阿僧祇
常説法教化　無數億衆生　令入於佛道　爾來無量劫
爲度衆生故　方便現涅槃　而實不滅度　常住此説法
我常住於此　以諸神通力　令顛倒衆生　雖近而不見
衆見我滅度　廣供養舍利　咸皆懷戀慕　而生渇仰心
衆生既信伏　質直意柔軟　一心欲見佛　不自惜身命
時我及衆僧　俱出靈鷲山　我時語衆生　常在此不滅
以方便力故　現有滅不滅　餘國有衆生　恭敬信樂者
我復於彼中　爲説無上法　汝等不聞此　但謂我滅度
我見諸衆生　没在於苦海　故不爲現身　令其生渇仰
因其心戀慕　乃出爲説法　神通力如是　於阿僧祇劫
常在靈鷲山　及餘諸住処　衆生見劫盡　大火所燒時
我此土安穏　天人常充滿　園林諸堂閣　種種寶莊嚴
寶樹多花果　衆生所遊樂　諸天擊天鼓　常作衆伎樂
雨曼陀羅華　散佛及大衆　我淨土不毀　而衆見燒盡
憂怖諸苦惱　如是悉充滿　是諸罪衆生　以惡業因縁
過阿僧祇劫　不聞三寶名　諸有修功德　柔和質直者
則皆見我身　在此而説法　或時爲此衆　説佛壽無量
久乃見佛者　爲説佛難値　我智力如是　慧光照無量
壽命無數劫　久修業所得　汝等有智者　勿於此生疑
當斷令永盡　佛語實不虚　如醫善方便　爲治狂子故
實在而言死　無能説虚妄　我亦爲世父　救諸苦患者
爲凡夫顛倒　實在而言滅　以常見我故　而生憍恣心
放逸著五欲　墮於惡道中　我常知衆生　行道不行道
隨應所可度　爲説種種法　毎自作是念　以何令衆生
得入無上道　速成就佛身

妙法蓮華経提婆達多品第十二

深く罪福の相を達して　遍く十方を照したもう
微妙の浄き法身　相を具せること三十二　八十種好
を以て　用て法身を荘厳せり　天人の戴仰する所
龍神も　咸く恭敬す　一切衆生の類宗奉せざる者
なし　又聞いて菩提を成ずること唯佛のみ当に
証知したもうべし　我大乗の教を闡いて苦の衆生
を　度脱せん

爾の時に舎利弗。龍女に語って言わく。汝久しからずして。無上道を得たりと謂える。是の事信じ難し。所以は何ん。女身は垢穢にして。是れ法器に非ず。云何ぞ能く無上菩提を得ん。佛道は懸曠なり。無量劫を経て。勤苦して行を積み。具さに諸度を修して。然して後に乃ち成ず。又女人の身には猶お五つ障あり。一には梵天王となることを得ず。二には帝釈。三には魔王。四には転輪聖王。五には佛身なり。云何ぞ女身速かに成佛することを得ん。爾の時に龍女一の宝樹あり。価直三千大千世界なり。持って以て佛に上る。佛即ち之を受けたもう。龍女。智積菩薩。尊者舎利弗に謂って言わく。我宝樹を献る。世尊の納受。是の事疾しや不や。答えて言わく。甚だ疾し。女の言わく。汝が神力を以て我が成佛を観よ。復此れよりも速かならん。当時の衆会。皆龍女の忽然の間に。変じて男子と成って。菩薩の行を具して。即ち南方無垢世界に往いて。宝蓮華に坐して等正覚を成じ。三十二相。八十種好あって。普く十方の。一切衆生の為に。妙法を演説するを見る。爾の時に娑婆世界の。菩薩。声聞。天。龍。八部。人と非人と。皆遥かに彼の龍女の成佛して、普く時の会の人天の為に法を説くを見て、心大に歓喜して。悉く遥かに敬礼す。無量の衆生。法を聞いて解悟し。不退転を得。無量の衆生。道の記を受くることを得たり。無垢世界六反に震動す。娑婆世界の三千の衆生。不退の地に住し。三千の衆生。菩提心を発して授記を得たり。智積菩薩。及び舎利弗。一切の衆会。黙然として信受す。